

2019年 6月 8日 (土)

会場：東京大学 駒場キャンパス 18号館 ホール
資料代：1,000円

シンポジウム

3.1 独立運動の多元的可能性

1919年三一独立運動から、今年で100年を迎えた。再論するまでもなく、3.1独立運動とその精神は、今日に至るまで朝鮮民族運動の始発点としての意義を持つものと広く受け止められ、とりわけ大韓民国臨時政府の成立に直接関わることから、韓国現政権が大韓民国の歴史的起源を3.1運動に求めるなど、主として韓国近現代史の範疇で語られ研究されてきている。ただし、3.1運動は朝鮮半島のみならず国外居住者を含めた多くの民族運動に多大な影響を及ぼしており、また朝鮮民主主義人民共和国の歴史観においても一定の意義を認めている。3.1独立運動の歴史的意義を、より広い視座から再考することが求められているといえよう。本大会では、朝鮮民主主義人民共和国をはじめ、ソウル以外の朝鮮内地域、中国朝鮮族、在日朝鮮人社会それぞれの位置から3.1運動の持つ実態とその意義を再照射することで、現代の朝鮮半島と日本との関係にもつながる朝鮮民族運動の多元性を模索したい。

13:00 特別報告

康成銀 さん (朝鮮大学校)

『朝鮮民主主義人民共和国における3.1運動史研究について』

14:00 報告

『3.1運動期の植民地権力と朝鮮民衆－地域における「対峙」の様相を考える－』

水野 直樹さん (京都大学)

『解放直後、在日朝鮮人による3・1運動継承』

ベヨンミさん (大谷大学)

『中国東北の龍井における3・13独立運動の展開とその記憶の継承』

飯倉 江里衣さん (東京外国語大学)

15:30 ディスカッション

モデレーター 外村 大さん (東京大学)

10:00-11:00 自由論題発表 (4階)

劉賢国 (筑波技術大学) 『三・一独立運動後、中国内の上海版『独立新聞』創刊と朝鮮語活字開発そして、その意味』

山口祐香 (九州大学大学院) 『『朝鮮通信使』の再発見－在日朝鮮人知識人たちの歴史実践を通じて－』

白凜 (東京大学大学院) 『戦後日本の在日朝鮮人美術－解放から1960年まで』

梁仁實 (岩手大学)

『映画監督・李学仁の映画観』

